

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101199		
法人名	医療法人社団 清宮医院		
事業所名	グループホーム 山王の家		
所在地	群馬県前橋市山王町133番地		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで残された能力を最大限に活かし、その人らしく過ごしていただけるよう個々を大切に支援させていただいています。のんびり・ゆったりと・楽しく・笑顔の絶えないホームでありたいと思っています。併設の同法人施設の協力体制の中、医師、看護師等と連携を取り医療面でも安心して生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍、馴染みの関係を保つため、家族に何回も好みの衣装をもってきて頂いたり、孫の成長がわかる写真をもってきて頂いたり、職員が馴染みの人・場所等との関係が途切れない支援を行なっている。地域住民による「防災協力委員」の協力のもと、隣接の老人保健施設と合同の定期的な防災訓練を行い、事業所ばかりでなく安全な地域づくりにも取り組んでいる。食事は毎月の行事食を利用者の意見を聞きながら提供するとともに、誕生日・母の日などの特別メニューには、職員から感謝の手紙を添えるなど、きめ細やかな支援が行われている。トイレで排泄することの大切さを職員が共有し、毎日の生活リハビリや体操に取り組み機能維持に努めることで、昼間は利用者全員がトイレでの排泄を可能にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	より家庭的な環境のもとで尊厳を尊重されつつ、残された能力を最大限にいかし安心して、自分らしい生活を地域の連携の中で営んでいた。事や理念とし、玄関と事務室に提示している。職員はそれを常に念頭に置き、理念に沿った支援をしている。	理念は、入職時や人事異動時に職員に伝えられている。また、日常の会議の中でも話し合われ、理念にある「残された能力を最大限に活かし安心して自分らしい生活を」の実現を目指している。	個々の職員が理念の持つ言葉の意味を理解し、共有するための話し合いの機会づくりを検討することに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域とのつきあいが困難な状況にあった。本来は、近隣の小学校の運動会などの行事に参加させて頂いたり、地域ボランティアの慰問を受けるなど交流の場を設けている。また、散歩や外気浴の機会も増やし、近隣住民への挨拶や話し掛けを行なっている。	コロナ禍前は、近隣の小学校から手作りの招待状が届き、運動会への見学や、ボランティアの訪問があった。今後はこれらの復活と共に、要望のある一般向けの「介護教室」の開催も検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域貢献が困難な状況にある。本来は、地域の中高生の職場体験やボランティアなどを受け入れ、認知症の方と触れ合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、会議は書面上での開催だったが、8月から対面での開催に戻っている。参加者から介護の講義を開催してほしいと要望があり、前向きに検討している。今後も意見や話し合った内容を職員全員で共有し、サービス向上に活かしていく。	8月より、対面式での運営推進会議が行われ、町内代表・家族代表・市職員等の参加のもと、利用者の状況・ヒヤリハット・活動報告が報告された。次回10月開催予定は、感染状況により中止となった。書面開催では、「意見書」を事前に参加者に郵送して、意見の集約を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に相談や助言を頂いたり、居室の空室情報の報告を毎月行なっている。	対面での運営推進会議の際に職員との意見交換が行われるが、通常の市への報告事項等のやり取りが中心になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束廃止委員会を運営推進会議後に開催している。また、接遇、マナー基準の資料配布と年二回の「虐待の芽チェックリスト」アンケート調査の実施により、職員各自、意識向上に努めている。電子ロックの扉もあるが職員が見守りを行っているため、使用していない。	入職時に、各職員に「接遇マナー基準」を配布している。年2回、利用者に対して、友達感覚になっていないか・嘲笑していないか等々の項目の「虐待の芽チェックリスト」を職員に配布し、集計結果を分析することで、身体拘束しないケアの実現に努力している。	職員間で「拘束しないケア」の大切さを話し合い、統一したケアの実践に向けて検討することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	本来は外部の研修に参加し意識の向上を図っているが、コロナ禍により研修の機会が少ない為、「虐待の芽チェックリスト」アンケート結果や接遇、マナー基準の資料を用いて、ケア会議や日々の話し合いの場で意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為、研修等には参加できていないが、権利擁護についての資料を基に知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約等については、利用者様やご家族が理解しやすいよう、管理者がゆっくり時間をかけ説明し、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中で、利用者様個々と話す機会を作ったり、意見や要望などを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。ご家族の面会時などにはご意見ご要望を伺うようにしている。また、利用者様、ご家族のご要望をケア会議等で話し合い職員間で共有し出来る限りの対応に努めている。	面会時には職員から家族に声掛けをし、気楽な会話を交わすことで、日頃から話しやすい関係づくりが行われている。家族とは、利用者の日頃の暮らしぶりの話題が中心となっている。	事業所側から運営に関する具体的なテーマを家族に投げかけ、意見等を求めるなど、家族にも運営に関心を寄せてもらえるよう、職員間で話し合うことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やケア会議の場、日常会話の中でも意見を出し話し合っている。また、年二回、自己評価表に職場への意見や要望を記入し提出している。	管理者は常に、職員が自分の意見を言いやすい環境作りに努めるとともに、個々の職員は年2回の「自己評価表」に自由に提案等が記入できる状況にある。職員提案で、刻み食調理器具の購入が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を理解し対応している。個別で職員の相談に応じ改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修の案内をし必要な研修には積極的に参加できるよう配慮している。研修後は復命書を提出している。コロナ流行以前は年二回の全体会議で研修報告をしていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者との交流の機会を持ち勉強させてもらっている。また、同法人内でも病院、老健、有料老人ホーム等の職員との交流があり、多職種間で情報交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書の他、担当者等から情報を得て介護に反映している。同法人内からの入所が多い為、随時情報交換や相談が出来る。本人の気持ちを傾聴し、安心して頂けるような雰囲気作りに努めている。また、同法人看護部長なども利用者様の話を聞き相談を受け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などゆっくり話をする機会を設け、希望等を伺うようにしている。定期的に電話にて状態説明しているが、その際、心配事や要望など小さなことでも話して頂けるような関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、法人の施設全体としてサービスを提供している。ご本人、ご家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様と一緒に作品制作や洗濯をする事があり教えて頂く事も多い。昔の生活や仕事のことなど話してくれ、一緒に過ごしながら学ばせてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、玄関ドアのガラス越し面会をされている。面会時は、なるべくご本人とご家族の時間を大切にしよう少し離れたところで見守る等配慮している。また、ご本人の普段の様子や希望を伝えたり、ご家族の希望をお伺いし、ご本人やご家族の気持ちに添えるよう一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方からの面会希望もあるが、コロナ禍の為、現在はご家族の面会のみ制限させて頂いている。法人全体で対応の緩和も検討している。	コロナ禍前は、近隣住民や在宅時のヘルパーの訪問があったが、現在は家族との窓越しの面会にとどまっている。馴染みの関係の継続は自宅で生活してきた環境を重視して、利用者の生活歴を大切にしながら具体的な支援を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席やレクリエーション時の場所などご本人の希望と利用者様同士の関係も考慮し決めている。また、職員は利用者様全員の様子に気を配り情報を共有しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人としてかかわっており、退所後の相談、ケアも包括的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をする時間を持ち、表情や行動の中からくみ取るよう努めている。意志の表出が難しい場合でも、様子から見えるものを大切にしている。また、職員間でも情報を共有し総合的な対応を心掛けている。	ほとんどの利用者が会話や意思を伝えることができるので、意向を聞き、生活歴と照らし合わせながら、事業所内での日々の暮らしに繋げている。上手く意思表示できない利用者については、これまでの関係性の中で、その時々希望・要望等を推察し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者情報を把握し、又、ご家族様から情報を得、日常の会話や行動の中からも情報を得て対応している。得た情報はケア会議等で共有し活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に利用者様の言葉、行動に気を配っている。また、介護記録や申し送り、ケア会議等で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケア会議を行ない、ご本人やご家族様の意向を考慮し検討している。また、状態変化時には常に意見交換を行い、それを反映した介護計画の作成をしている。	管理者がアセスメントを3ヶ月ごとに行い、介護計画書の作成に携わっている。ほとんどの利用者が隣接する老人保健施設からの入居なので、アセスメントから担当者会議で検討が行われ、介護計画書作成に至っている。	介護計画書のプラン内容の具体化と、それに繋がる関連する各種記録の一貫性の構築にむけて検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入している。口頭やノートでの申し送りをし情報を共有しながら、日々の介護や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけでは対応できない場合などは同法人施設のサービスの利用や多職種間の連携を取りながら個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為出来なかったが、以前はボランティアの受け入れや教育機関との交流などを老健と一緒に進めていた。今後は地域資源の活用を積極的に行っていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診が行われている。また、同法人の医師により24時間の対応が行われている。ご本人やご家族の希望により通院支援の体制も整えている。	毎日協力医が訪問し、利用者の医療的支援を行っている。緊急時は、法人内の看護師が訪問し、医療的ケアが行われている。他科への通院は原則家族だが、希望により職員が対応している。希望により、歯科医の訪問診療も実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老健看護師に日常的にかかわってもらっている。相談したり指示をもらったりしている。処置が必要な時はお願いしている。同時に医師との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師や医療ソーシャルワーカー、看護師と連絡を取り状態を把握するとともに、情報交換や相談、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時など、ご家族と連絡を取り医師や看護部長も交え話をしながらご家族の意思を確認し、統一した対応をとるようにしている。また、入居時に「重度化した場合に係わる対応の指針」を説明している。	重度化や終末期に向けた対応は、併設の医療機関や老人保健施設での対応を主にしている。家族等の希望により、事業所で終末期を希望される方に関しては、指針をもとに対応が出来るよう整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については随時話し合い、マニュアルに従って行動するようにしている。今年の10月に一時救命の研修に参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健と合同の避難訓練を年2回実施している。また、地域の方々に防災協力委員をお願いしている。	年2回老人保健施設との合同訓練で、法人全体で会議を行い、当日に向けての訓練方法を作成し、行われている。事業所内では利用者の誘導終了の際、入り口にゴミ箱を置くなど、職員のスムーズな避難のための工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状態や気持ち、尊厳を大切にし、丁寧な対応を心かけている。言葉遣いや表情、雰囲気注意到し尊重する気持ちをもって接している。	理念にある「尊厳の尊重」を大切にし、利用者のいままでの人生を大切にケアを心掛けている。今の気持ちを大事にし、特に入浴時や排泄時には羞恥心に配慮した優しい話しかけなど、利用者のプライドを重視したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で普段から利用者様が職員に何でも言える様な雰囲気作りを心かけている。特に入浴時や夜間帯はゆっくり向き合える時間で、気持ちを聞かせて頂ける事も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせるようにしている。こまめに声を掛け、その時の体調や気持ちに配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みや希望に添った支援をご家族の協力を得ながら行っている。出張利用サービスもご希望に合わせて利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニュー、旬の物を取り入れ、食べ物好みも聞きながら食事作りをしている。調理レクとして一緒に作って楽しむ機会も増やしている。	調理専門の職員2名が、老人保健施設のメニューを参考にして献立表を作成し、食材の注文も行っている。行事食は利用者の意見を聞き、利用者と一緒に作ることもある。配膳時にはメニューの説明をし、嚥下機能維持のため口腔体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し個々の食事を把握している。形態なども個々の希望や状態に合わせてその都度対応している。水分摂取量も個々の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。見守りや声掛け、一部介助など個々の状態に合わせて対応している。また、必要時、訪問歯科の診察も受けられる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し個々の状態に合わせて援助している。羞恥心や状態を配慮した声掛けや対応をして、トイレでの排泄支援を行っている。	トイレで排泄することは、利用者の尊厳を保つ事と捉え、排泄支援を行っている。手すりを利用して排泄動作の生活リハビリを行い、いつまでもトイレでの排泄が可能になるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品を取り入れたり、水分摂取量に気をつけている。リハビリや、レクリエーションで身体を動かす機会も作っている。必要時医師の指示の元、下剤の使用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や状態に合わせて臨機応変に対応している。入浴日には声掛けをし希望を確認している。週2回は入浴している。男性が嫌だという希望の人には女性職員が対応するなど羞恥心に配慮した対応も行っている。	羞恥心に配慮し、同性介護を行っている。楽しむことの入浴支援として、季節ごとの入浴剤や柚子・菖蒲等を浴槽にいれ音楽を流すなど、職員とマンツーマンでゆっくりと会話のできる時間の提供に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや状態に合わせて声掛けをし、個室の利便性を活かし休んでいただいている。また、寝具等も個々に合わせご家族の協力も得ながら用意していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに薬剤情報があり、すぐに確認できるようになっている。常時、医師や看護師、薬剤師と連携し、状態の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為、出来る事の制限は多いが、行事やレクリエーション、製作や洗濯物たたみ等を通し、ハリのある楽しい毎日が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本来は、利用者様の希望を聞きながら夕食やドライブなどを行っている。気候の良い日は外気浴や散歩に出かけている。コロナ禍の為、外出が難しいが、外気浴や散歩の機会を増やしレクリエーションで気分転換が出来るよう支援している。	庭にはパンジーなど季節の花を植え、職員が季節ごとの花等を持参し飾るなど、五感の刺激になっている。コロナ禍で外出の機会が少ないので、敷地内の散歩や外気浴、毎日の体操を行い、ストレス発散の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に応じて、ご家族と連携しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の希望に添って電話の使用、手紙の投函など支援している。事務所の電話も使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者様と制作した作品を飾っている。清潔を保ち心地よく過ごして頂けるよう気を付けている。定期的な換気やエアコン、サーキュレーターなどを使用し年間を通して快適な温度管理に努めている。	日付がわかるように大きなカレンダー、四季折々職員と一緒に作ったオブジェが飾れて、季節感を味わうことができ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの座席配置などはご本人の気持ちや様子を見ながら考えている。また、気の合った利用者様同士を隣にするなどの配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭から馴染みの物や好みの物、ご家族の写真等を持参して頂いている。居室はご本人やご家族と相談し使いやすい配置を考えている。	居室入り口には、手作りのネームプレートが飾られ自室がわかりやすいようになっている。入居時に家具等の配置を相談して、コルクボードへの写真の掲示や布団・好みの衣類の持参、なかには家族が毎月雑誌を持参するなど、居心地の良い居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名札を設置し分かりやすくしている。廊下には手すりがあり車椅子が交差できる広さがある。見守りや付き添いで安全確保に努めている。		